

第2章 三木町における自殺の現状

1 各種統計データからみる現状

自殺に関する統計を用いて、三木町における自殺の現状を分析しました。主なポイントは次のとおりです。

- 1 平成 25～29 年の自殺者数は 23 人で、かけがえのない多くの命が自殺に追い込まれている状況にある。
- 2 年齢階級別の自殺者数は、男性は 40 歳代から 60 歳代のいわゆる働き盛りの年代が多く、女性は、60 歳代以上の高齢者の割合が高くなっている。
- 3 死因順位を年齢階級別でみると、20～34 歳代の各年代の死因の第 1 位が自殺であり、三木町においても若年層の自殺死亡率は高い。特に男性の 30 歳代の自殺死亡率が高くなっている。
- 4 原因・動機別の自殺者数は、女性は身体疾患の病苦からうつ状態となり自殺に追い込まれる人が多い。男性は、生活苦からうつ状態となり自殺に追い込まれる人が多い。
- 5 性・年代等の特性でみた主な自殺の特徴として、男性 40～59 歳無職同居、男性 20～39 歳有職同居、女性 60 歳以上無職同居の人の自殺が多い。

厚生労働省「人口動態統計」と警察庁「自殺統計」について

自殺者数に関する統計については、厚生労働省「人口動態統計」と警察庁「自殺統計」の 2 種類を用途に応じて使い分けています。主な違いは次のとおりです。

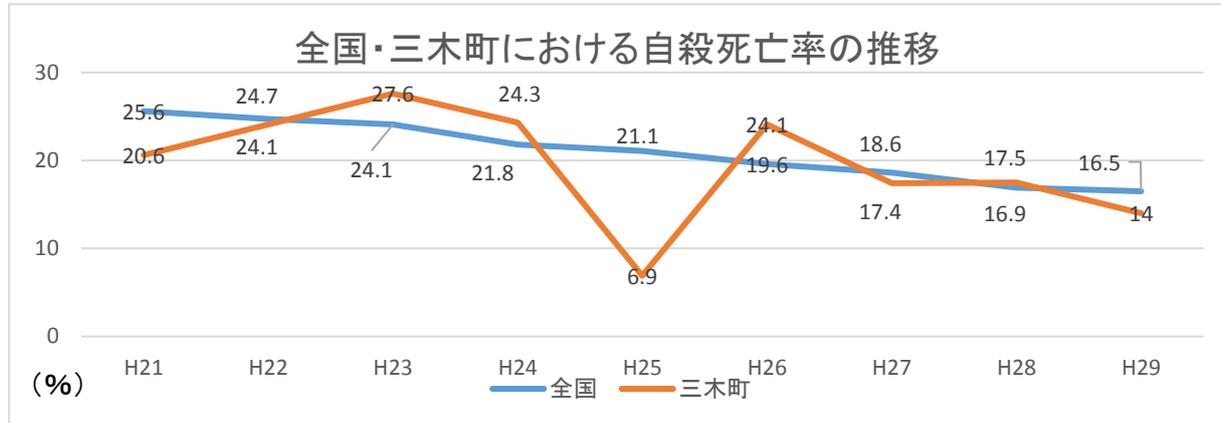
	厚生労働省「人口動態統計」	警察庁「自殺統計」
調査対象	日本における日本人	総人口（日本における外国人も含む。）
調査時点	住所地を基に死亡時点で計上	発見地を基に発見時点で計上

また、警察庁「自殺統計」については、警察庁からデータ提供を受けた厚生労働省自殺対策推進室が再集計を行い、都道府県、市区町村別のより詳細な資料を「地域における自殺の基礎資料」として公開しています。「地域における自殺の基礎資料」は発見地・発見日で計上したデータの他にも、住居地・自殺日等で計上したデータがあり、本計画においても使用しています。

*自殺件数は年度によりばらつきがあり、増減の変化が大きくなります。したがって、本計画に関する統計データ等については平成 25～29 年の総数をもって示しています。

(1) 自殺死亡率の推移

本町の自殺死亡率は、おおむね全国を下回る水準で推移しており、平成29年は14%となっています。



資料：厚生労働省「人口動態統計」

(2) 死因順位別にみた年齢階級別自殺者数

年齢階級別の死因順位をみると、「20～34歳」の各年代の死因の第1位は自殺となっています。

(表2-1) 死因順位別にみた年齢階級別死亡数・構成割合 (平成24年～28年合計)

年齢階級	第1位			第2位			第3位		
	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合
10～14歳	不慮の事故	8	33.3%	自殺	7	29.2%	悪性新生物	5	20.8%
15～19歳	不慮の事故	23	46.0%	自殺	11	22.0%	悪性新生物	8	16.0%
20～24歳	自殺	42	43.3%	不慮の事故	23	23.7%	心疾患	7	7.2%
25～29歳	自殺	52	41.3%	不慮の事故	34	27.0%	悪性新生物	18	14.3%
30～34歳	自殺	64	36.2%	悪性新生物	29	16.4%	心疾患	26	14.7%
35～39歳	悪性新生物	59	24.1%	自殺	58	23.7%	不慮の事故	29	11.8%
40～44歳	悪性新生物	114	28.7%	自殺	78	19.6%	心疾患	45	11.3%
45～49歳	悪性新生物	152	33.7%	自殺	61	13.5%	心疾患	63	14.0%
50～54歳	悪性新生物	247	37.4%	心疾患	118	17.9%	自殺	68	10.3%
55～59歳	悪性新生物	527	44.9%	心疾患	155	13.2%	脳血管疾患	89	7.6%
60～64歳	悪性新生物	1,060	46.6%	心疾患	354	15.5%	脳血管疾患	130	5.7%

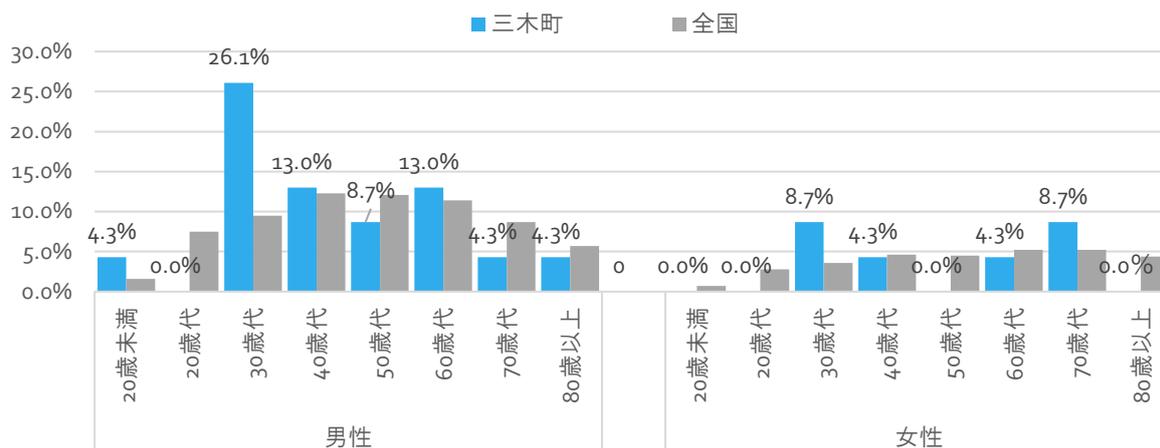
資料：厚生労働省「人口動態統計」

第2章 三木町における自殺の現状

(3) 年齢階級別の自殺者割合・自殺死亡率

平成25年から29年までの自殺者の性・年代別割合と自殺死亡率をみると、男性は「30歳代から40歳代」のいわゆる働き盛りの年代が多くなっています。女性は「70歳代以上」の高齢者の割合が高くなっています。

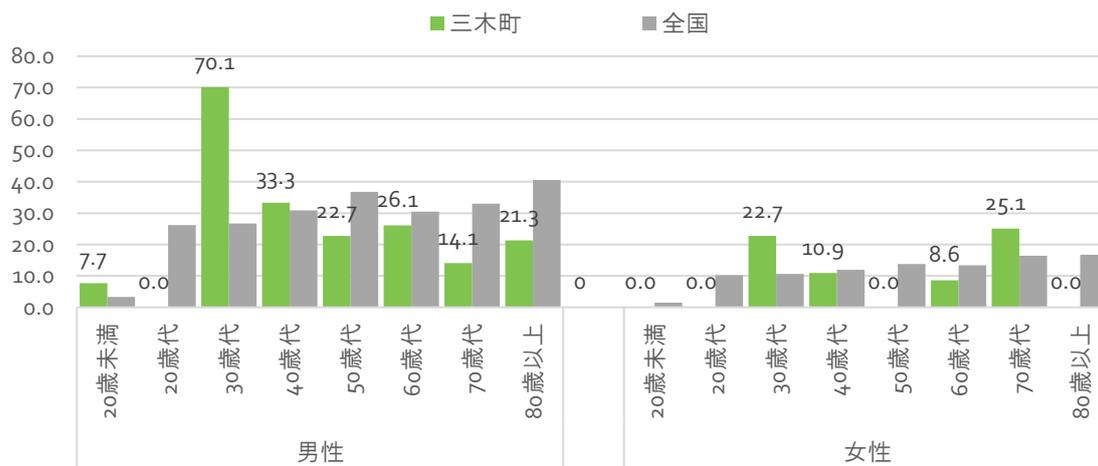
性・年代別の自殺者割合*（平成25～29年総数）



*全自殺者数に占める割合を示す

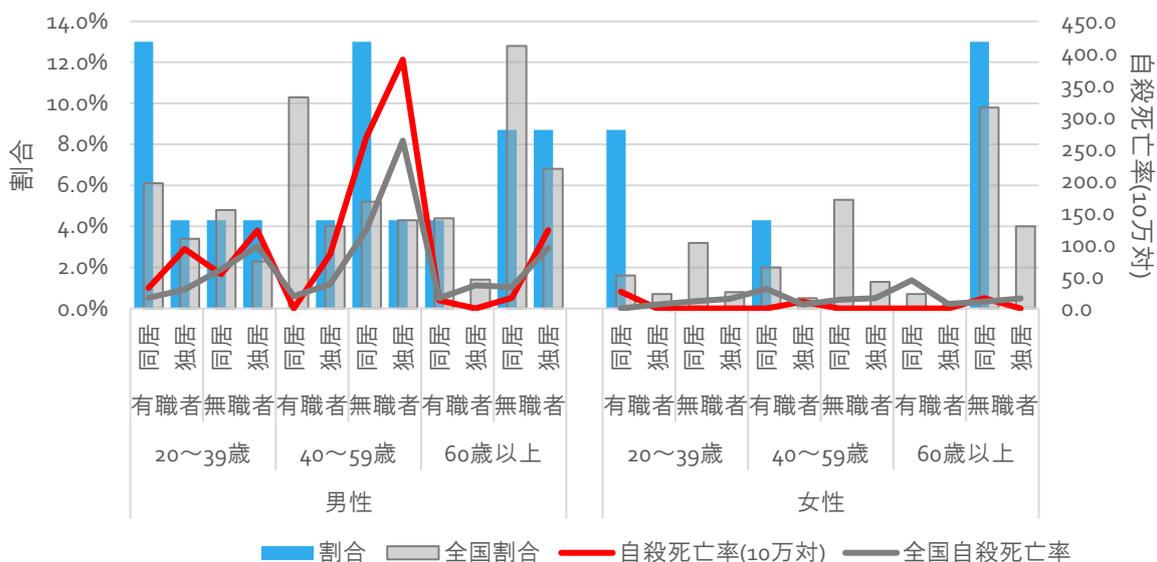
資料：厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料」

性・年代別の自殺死亡率（10万対）



(4) 年代別の同居人有無別自殺者割合、職業有無別自殺者割合

同居人の有無別では、男女ともに「同居人あり」が「同居人なし」より多くなっています。また、職業の有無別では、男女ともに20～39歳は「有職者」の自殺割合が高いが、40歳以上では「無職」の自殺割合が多くなっています。



資料：厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料」

(参考) 有職者の自殺の内訳 (特別集計 (自殺日・居住地、H25～29 合計))

職業	自殺者数	割合	全国割合
自営業・家族従業者	2	22.2%	20.3%
被雇用者・勤め人	7	77.8%	79.7%
合計	9	100.0%	100.0%

*性・年齢・同居の有無の不詳を除く

資料：厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料」

参考表1) 生活状況別の自殺の背景にある主な危機経路の例

下記の表のように、自殺の背景には、精神保健上の問題だけでなく、『過労・生活困窮・育児や介護疲れ・いじめや孤立』といった様々な社会要因を有しており、これら複数の要因が連鎖する中で起きていることが分かります。

生活状況				背景にある主な危機経路の例
男性	20～39歳	有職	同居	職場の人間関係／仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺
			独居	①【正規雇用】配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺／②【非正規雇用】(被虐待・高校中退)非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺
		無職	同居	①【30代その他無職】ひきこもり+家族間の不和→孤立→自殺 ②【20代学生】就職失敗→将来悲観→うつ状態→自殺
			独居	①【30代その他無職】失業→生活苦→多重債務→うつ状態→自殺 ②【20代学生】学内の人間関係→休学→うつ状態→自殺
	40～59歳	有職	同居	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
			独居	配置転換(昇進/降格含む)→過労+仕事の失敗→うつ状態+アルコール依存→自殺
		無職	同居	失業→生活苦→借金+家族間の不和→うつ状態→自殺
			独居	失業→生活苦→借金→うつ状態→自殺
60歳以上	有職	同居	①【労働者】身体疾患+介護疲れ→アルコール依存→うつ状態→自殺 ②【自営業者】事業不振→借金+介護疲れ→うつ状態→自殺	
		独居	配置転換／転職+死別・離別→身体疾患→うつ状態→自殺	
	無職	同居	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺	
		独居	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺	
女性	20～39歳	有職	同居	離婚の悩み→非正規雇用→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺
			独居	①非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺 ②仕事の悩み→うつ状態→休職／復職の悩み→自殺
		無職	同居	DV等→離婚→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺
			独居	①【30代その他無職】失業→生活苦+うつ状態→孤立→自殺 ②【20代学生】学内の人間関係→休学→就職失敗+うつ状態→自殺
	40～59歳	有職	同居	職場の人間関係+家族間の不和→うつ状態→自殺
			独居	職場の人間関係+身体疾患→うつ状態→自殺
		無職	同居	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺
			独居	夫婦間の不和→離婚→生活苦→うつ状態→自殺
	60歳以上	有職	同居	介護疲れ+家族間の不和→身体疾患+うつ状態→自殺
			独居	死別・離別+身体疾患→うつ状態→自殺
		無職	同居	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
			独居	死別・離別+身体疾患→病苦→うつ状態→自殺

主な危機経路の例は自殺実態白書2013(ライフリンク)を参考にした。

2 関連する統計からみる現状

(1) 三木まんで願健康プロジェクト 2016～健康長寿をめざして～

■調査の概要

- ①調査対象 20歳以上の町民 2,300 人を無作為抽出
- ②調査方法 郵送
- ③調査時期 平成 27 年 8 月 14 日～平成 27 年 9 月 11 日
- ④回収結果 59.8% (1,375 人)

問1 ここ1か月間、あなたはストレスを感じることはありましたか。

ストレスの状況についてみると、「少し感じた・かなり感じた」が72.5%、「まったく感じなかった・あまり感じなかった」が26.9%となっています。

表 (ストレスの状況)

区分	人 (%)
まったく感じなかった	67 (4.9)
あまり感じなかった	303 (22.0)
少し感じた	741 (53.9)
かなり感じた	256 (18.6)
無回答	8 (0.6)

図 (ストレスの状況)

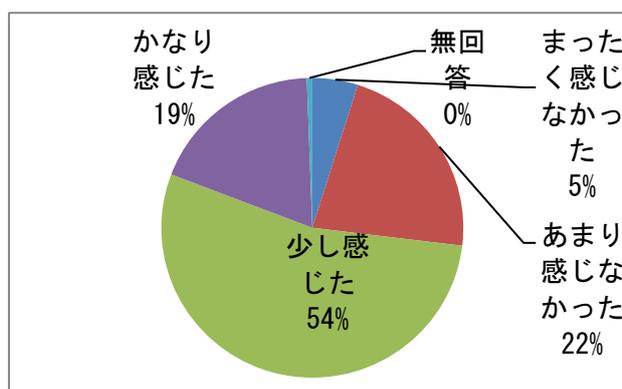
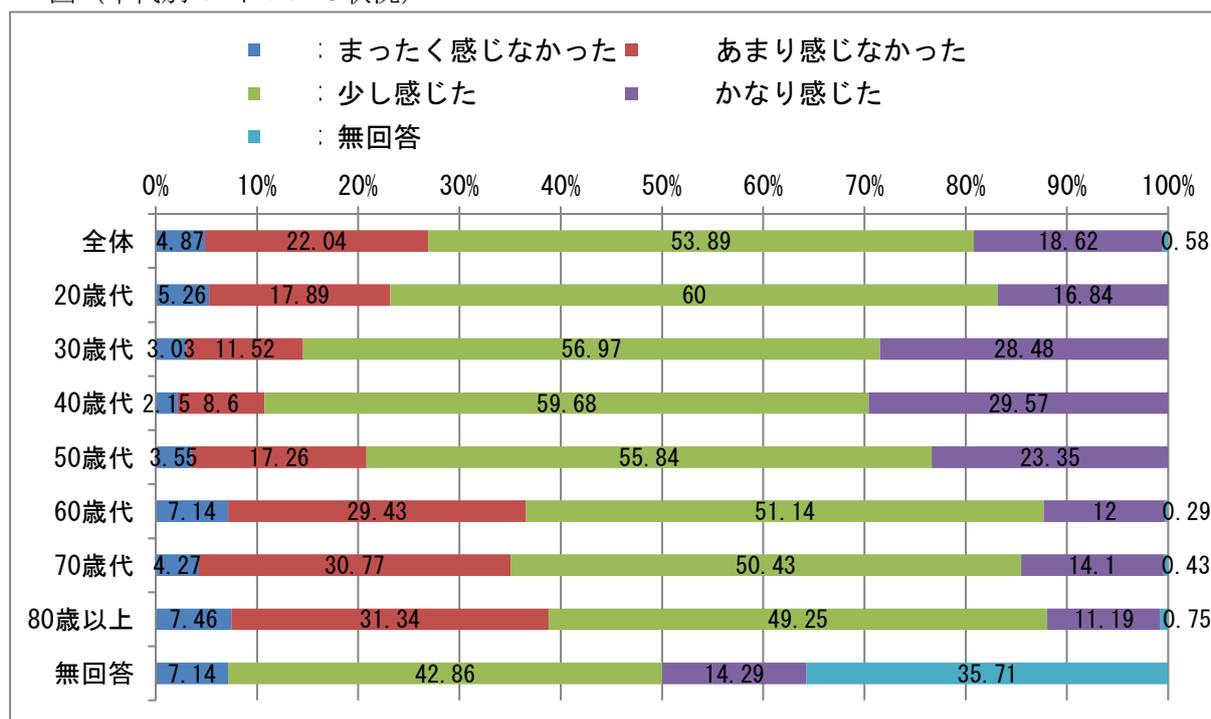


図 (年代別 ストレスの状況)



問2 あなたはストレスを感じたとき、どうしていますか。

次に、ストレスの対処法を見ると、「ストレスを感じても、あまり負担になっていない」が44.8%と最も多く、次いで「ストレスを負担に感じるが、十分な解消方法を持ち実行している」が29.9%、「ストレスが負担であり、解消方法も十分には持っていない」が23.6%となっています。

年齢階級別にみると、「ストレスが負担であり、解消方法も十分には持っていない」については40代が32.26%と最も高くなっています。

表 (ストレスの対処法)

区分	人 (%)
ストレスを感じても、あまり負担になっていない	616 (44.8)
ストレスを負担に感じるが、十分な解消方法を持ち実行している	411 (29.9)
ストレスが負担であり、解消方法も十分には持っていない	324 (23.6)
無回答	24 (1.8)

図 (ストレスの対処法)

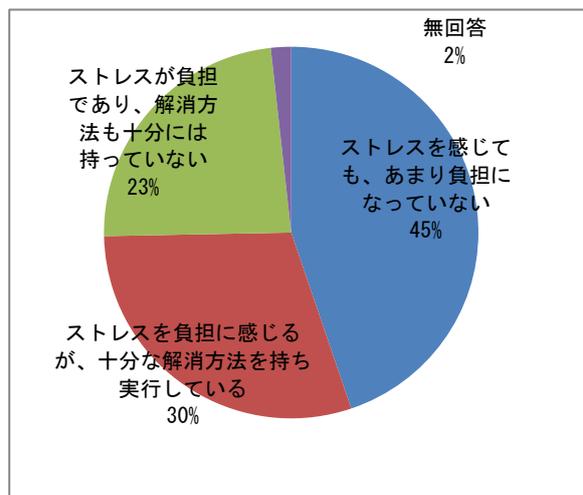
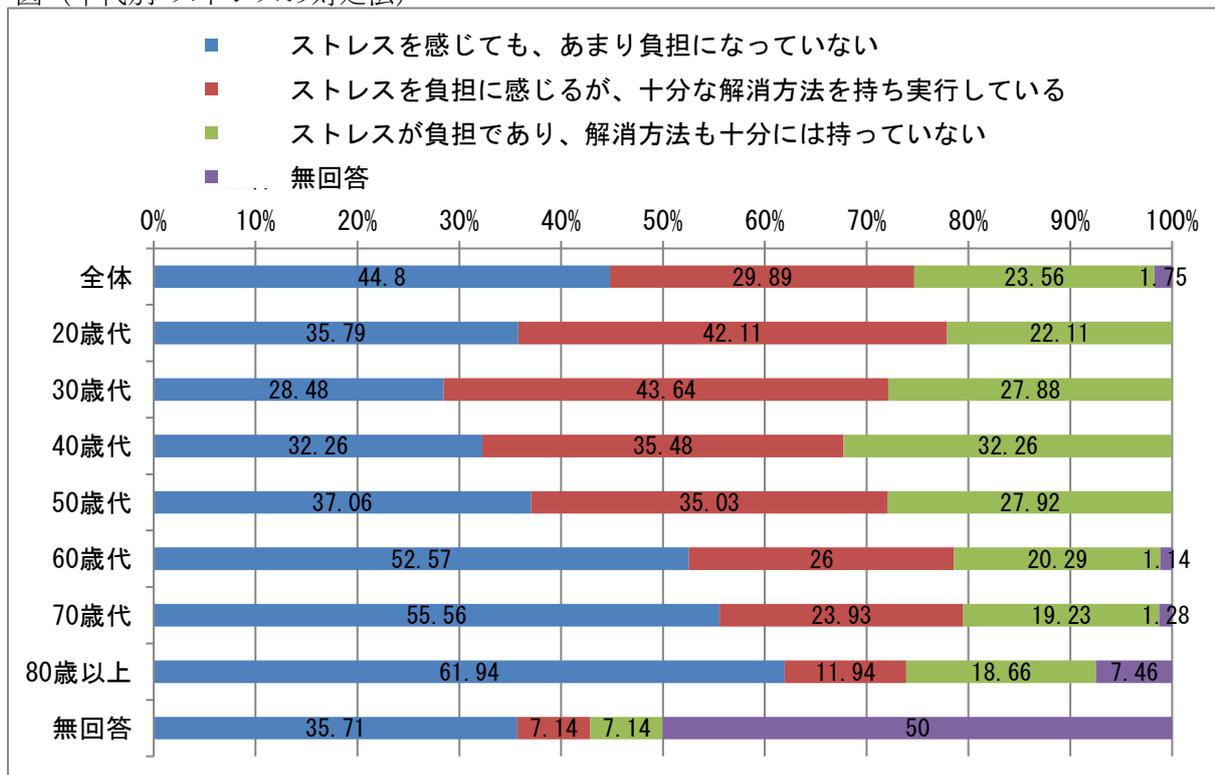


図 (年代別 ストレスの対処法)



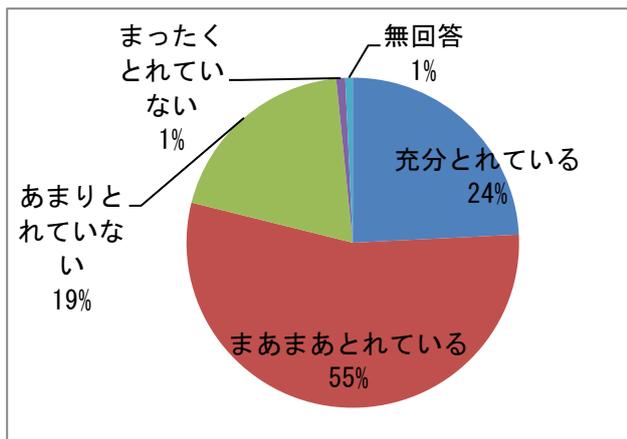
問3 ここ1か月間、あなたは睡眠で休養が充分とれていますか。

休養の充分さを見ると、「まあまあとれている」が54.7%と最も多く、次いで「充分とれている」が24.2%、「あまりとれていない」19.5%、「まったくとれていない」が0.9%となっています。年齢階級別に見ると、「あまりとれていない・まったくとれていない」の割合は、50代が多く、休養がとれていないと感じる割合が高い傾向にあります。

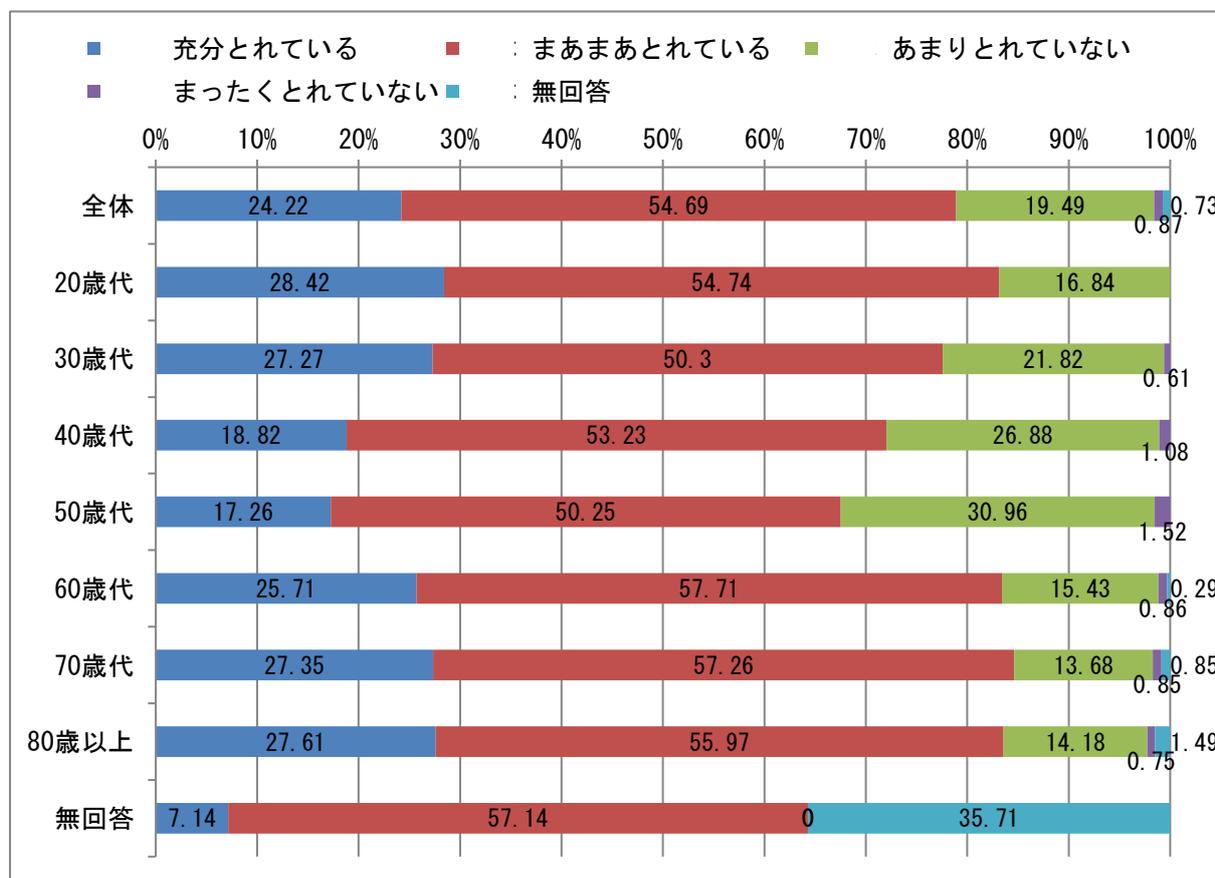
表（休養の充分さ）

区分	人 (%)
充分とれている	333 (24.2)
まあまあとれている	752 (54.7)
あまりとれていない	268 (19.5)
まったくとれていない	12 (0.9)
無回答	10 (0.7)

図（休養の充分さ）



図（年代別 休養の充分さ）



3 三木町の自殺の特徴（地域自殺実態プロフィール【2018】より）

都道府県及び市町村自殺対策計画の策定支援を行う自殺総合対策推進センターによる「自殺実態プロフィール」における分析によると、性・年代等の特性でみた主な自殺の特徴としては下表のような状況が考えられています。

このような状況から、本町において優先的な課題となり得る施策の対象者としては、「無職・失業者」「生活困窮者」「子ども・若者」「勤務・経営」「高齢者」が挙げられています。

三木町の主な自殺の特徴（特別集計（自殺日・住居地、H25～29 合計））

上位5区分	自殺者数 5年計	割合	自殺死亡率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:男性 40～59歳 無職同居	3	13.0%	268.8	失業→生活苦→借金+家族間の不和 →うつ状態→自殺
2位:男性 20～39歳 有職同居	3	13.0%	31.9	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態 →自殺
3位:女性 60歳以上 無職同居	3	13.0%	16.2	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位:男性 60歳以上 無職独居	2	8.7%	122.7	失業(退職)+死別・離別→うつ状態 →将来生活への悲観→自殺
5位:女性 20～39歳 有職同居	2	8.7%	26.1	離婚の悩み→非正規雇用→生活苦+ 子育ての悩み→うつ状態→自殺

資料：自殺総合対策推進センター提供資料「地域自殺実態プロフィール（2018）」

*平成27年国勢調査における人口を使用

**「自殺実態白書2013（NPO法人ライフリンク）」を参考